

5 西那須野地区

西那須野地区は、かつての那須開墾社と大山農場が位置します。この地区は那須野が原開拓の中心地帯であり、華族をはじめ地区内外の実業家等の大農場による開拓が押し進められ、那須疏水の完成を契機として開拓を担う移住者が激増し、やがて那須野新開村の誕生を見て、明治22年（1889）町村制の実施により西那須野村となりました。

西那須野地区の文化財は、近代開拓関係や華族などに関わるものが多いのが特徴です。

現在の一区町から四区町・千本松・二つ室は、那須開墾社（後年解散、千本松農場、矢板農場などに分轄）の範囲に属しました。地区内には、烏ヶ森の丘、那須開墾社烏ヶ森農場跡をはじめ、関八州大測量の起点（観象台）など近代開拓の歴史を示す文化財が広がっています。那須野が原を見下ろすことができる常盤ヶ丘の山頂には、那須野が原開拓の大恩人である印南丈作をはじめとする那須開墾社関係者の墓碑が並んでいます。

松方正義^{まさよし}が開設し、現在は観光牧場として人気の高い千本松牧場や国の研究機関農研機構（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構）の畜産研究部門の畜産飼料作研究拠点などが広く展開して、往時の草地景観を保持しており、大規模開拓農場の形を残しています。

西那須野駅を挟んで西側の永田地区と東側の下永田地区は、元勲大山巖と西郷従道^{じゅうどう}の共同経営による加治屋開墾場によって形成された地区といえます。大山・西郷の影響により東北本線が当地域を通るようになったと考えられ、明治19年（1886）開業の那須駅（現西那須野駅）周辺は急速に市街地化が進みました。

加治屋開墾場分割により、下永田地区は大山農場の区域となりましたが、戦後の農地改革により多くは小作人などに解放され、残った土地も、後に県や西那須野町に売却・寄附され、現在の文教地区（高等学校2か所、小学校1か所、公民館1か所）に姿を変えました。関連する文化財は大山農場の往時の姿を残す大山記念館や大山参道、赤レンガなどがあります。



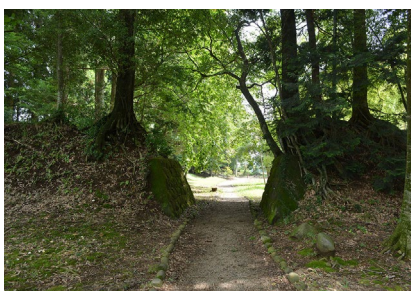
千本松の観象台



観象台の几号水準点標石



那須開墾社烏ヶ森農場跡



那須開墾社烏ヶ森農場跡
(土壘)

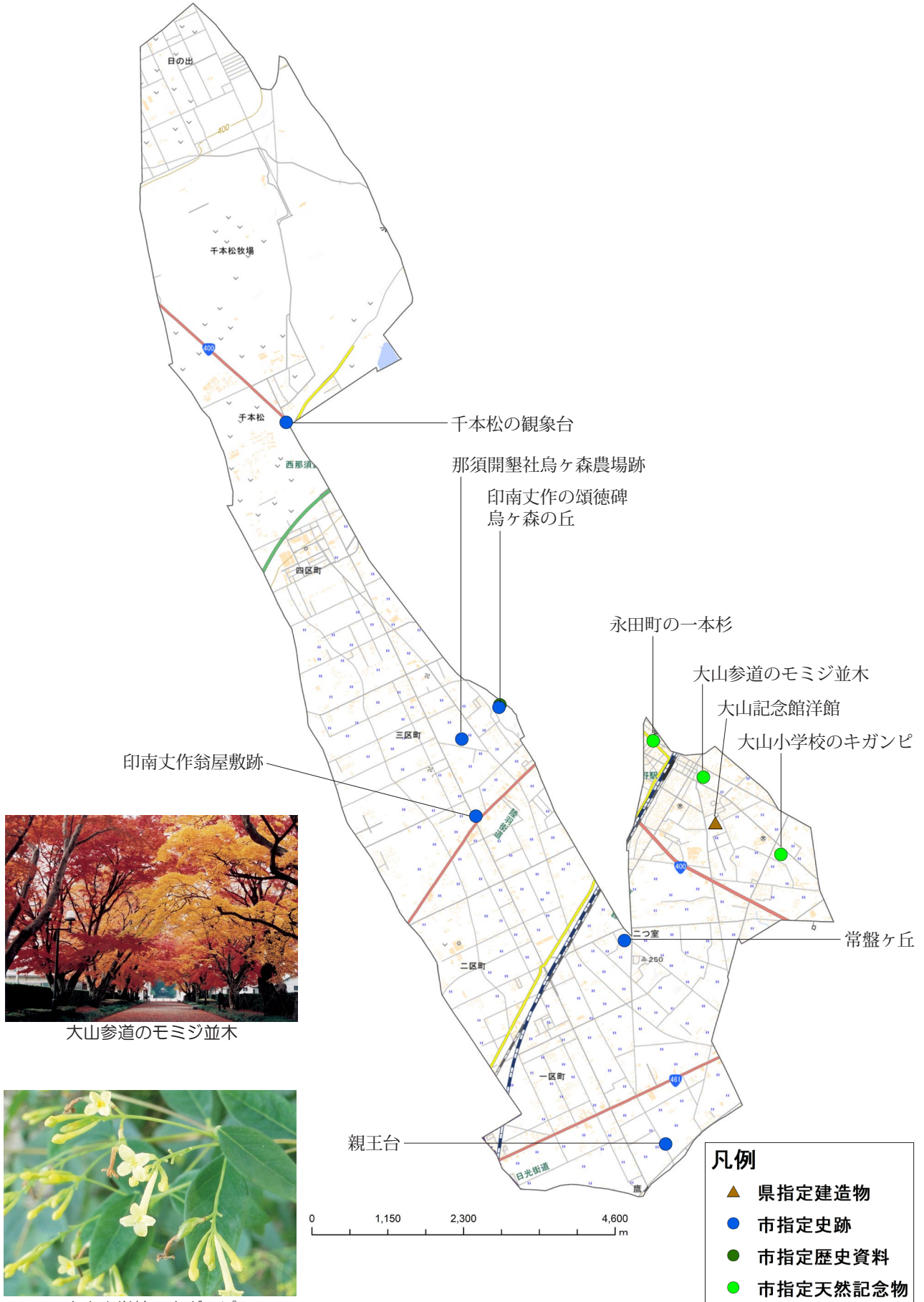


常盤ヶ丘



親王台

■ 西那須野地区の文化財分布



※国土地理院標準地図を加工して作成

6 狩野地区

狩野地区は古くから村落が成立した狩野・南郷屋の一部・石林等の地域と、明治の開拓によって成立した三島・太夫塚・南郷屋の一部から成ります。

井口・西富山・高柳・関根・東関根・西遅沢・東遅沢・槻沢から成る狩野地区の中央部には、古くは小規模な湧水点が点在して縄文時代の大規模集落が営まれました。後の鎌倉時代では、源頼朝の那須野卷狩が本地区及び東那須野地区を中心地として行われたものと考えられ、以来狩野郷が起ったと伝えています。一説によると、狩野郷は上郷・下郷の二つがあり、上郷はほぼ現在の東那須野地区に該当し、下郷が本地区に当たっていると考えられています。江戸時代以前から湧水点（出釜＝谷頭）を中心に集落が立地して農業が営まれ、街道筋の助郷などの役割を果たしてきました。

槻沢では、国指定重要文化財となった深鉢形土器をはじめとする、槻沢遺跡の縄文土器群があります。今から5,000年前の東北と関東の交流を裏付けるもので大変貴重な資料です。近くの井口にも大きな集落遺跡の跡が確認されていて、湧水点という地の利を得て古くから人々が生活を営んでいたことが分かります。江戸時代には広範囲な検地が実施され現在に伝わる地名が見られるようになります。以降江戸時代を通じて小規模な集落が各所に営まれ今日に至ります。

また、石林地区には、かつて陸軍大将乃木希典まれすけが別荘を構えて住民と親しく接しており、その別荘と、乃木の死後住民の要望により創建された乃木神社が現在も残っています。

三島地区は、肇耕社（後の三島農場）を中心に開発された地区で、西那須野駅北側に位置します。整然と碁盤の目のように区画された街区は、農場主であった三島通庸の都市計画の構想を今に伝えています。現在はJR西那須野駅・国道4号による交通の利便性から人口集中地区として宅地化が進んでいます。

三島農場は、薩摩藩出身で栃木県令も務めた三島通庸を実質的な代表とする「肇耕社」が明治13年（1880）に設立され、明治19年（1886）に三島個人の所有となり次第に拡大していきました。現在の那須野が原博物館は、この三島農場の事務所敷地に立地しています。博物館には近代の開拓に関わる資料が集積されており、展示などを通して活用されています。開拓に関わる近代遺産として三島通庸を祀る三島神社などがあります。



槻沢小学校の大モミジ



高柳の温泉神社のエノキ



乃木神社（拝殿）



三島農場事務所跡
（那須野が原博物館）



槻沢遺跡出土の縄文土器



三島通庸の肖像画

■ 狩野地区の文化財分布



凡例

- 国指定等建造物
- 国指定等考古資料
- ▲ 県指定史跡
- 市指定絵画
- 市指定史跡
- 市指定古文書
- 市指定考古資料
- 市指定有形民俗文化財
- 市指定無形民俗文化財
- 市指定彫刻
- 市指定天然記念物



鑿道八景 第7景
下野塩谷郡男鹿川独橋有三架



鑿道八景 第8景
下野那須郡三島村平野放牛

※国土地理院標準地図を加工して作成

7 塩原地区

塩原地区は市内西部の山間地に位置し、温泉街を有することで広く知られています。地区の全てが日光国立公園に含まれ、箒川の溪流と山地の自然豊かな地区です。中世の山城跡も残されており、古くから争いがあったものと考えられます。江戸時代には宇都宮藩に所属しており、藩主が湯治に赴いたという記録もあります。近世初頭から、中心地の移動はありましたが温泉地として栄え、江戸時代には儒学者などが多く訪れ、それぞれ紀行文などの記録を残しています。近代には、三島通庸による新道開削により交通の便が良くなり、明治時代には、華族をはじめ政治家や文人・名士がこぞって長期滞在し、別荘を設けました。

地形に起因する特徴的な文化財として材木岩、塩原を形作った塩原湖成層（日本の地質百選）・新湯爆裂噴火跡などがあります。

建造物では、正和元年（1312）開山と伝えられる妙雲寺や、創建が大同2年（807）と伝えられる塩原八幡宮があるほか、多くの温泉神社が地区内に残っています。旧塩原御用邸新御座所は、三島通庸が建築した別荘を前身としており、現在は「天皇の間記念公園」として一般開放されています。

天然記念物では、国指定天然記念物である逆杉が知られており、推定樹齢は約1,500年といわれています。

指定無形民俗文化財には、足利市の堀込源太節の流れである上塩原源太踊りや、古代獅子舞、塩原平家獅子舞が保存伝承されています。



逆杉



旧塩原御用邸新御座所



温泉神社石幢



塩の湯温泉神社（本殿）

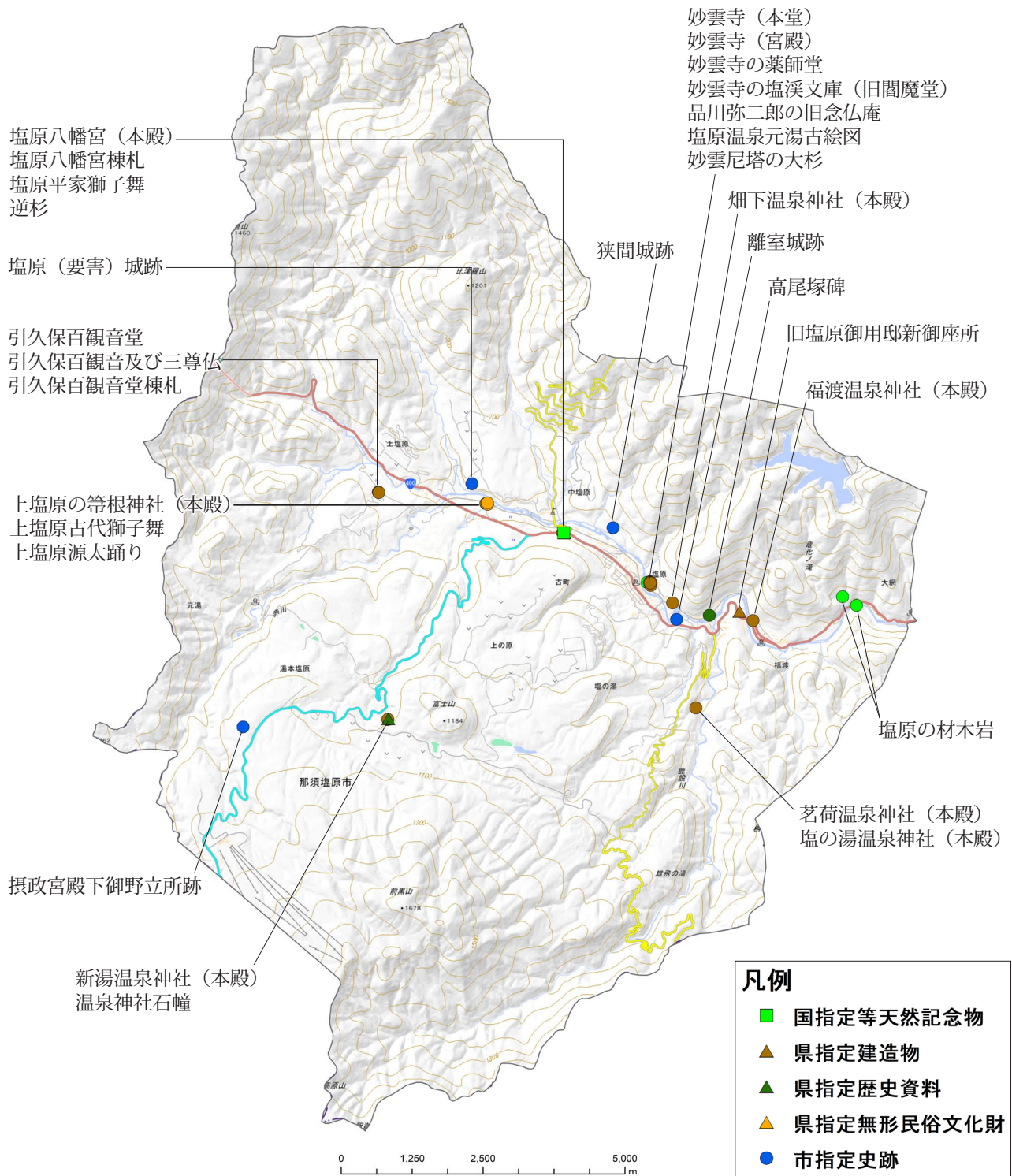


妙雲寺（宮殿）



上塩原源太踊り

■ 塩原地区の文化財分布



- 凡例**
- 国指定等天然記念物
 - ▲ 県指定建造物
 - ▲ 県指定歴史資料
 - ▲ 県指定無形民俗文化財
 - 市指定史跡
 - 市指定建造物
 - 市指定歴史資料
 - 市指定無形民俗文化財
 - 市指定彫刻
 - 市指定天然記念物



上塩原古代獅子舞



塩原平家獅子舞

※国土地理院標準地図を加工して作成

8 箒根地区

箒根地区は、明治22年（1889）の町村制施行により、関谷村、金沢村、宇都野村、高阿津村、上大貫村、下大貫村、下田野村、折戸村、^{ひきぬま}藁沼村、遅野沢村、上横林村、横林村、^{にわとこ}接骨木村が合併し塩谷郡箒根村として成立しました。地区内には8世紀に創建されたと伝えられ、大田原城主の祈願所でもあった嶽山箒根神社があります。

金沢地区の国有地内には、塩原動物群の模式地として重要視される大黒岩化石層群があります。宇都野・金沢地区には鳩ヶ森城や野沢（真木）城の城跡が残ります。また、市内では唯一となる弥生時代の遺跡の存在も知られています。金沢地区の和田山遺跡からは縄文後期の石棒・石剣・石鏃など多数が出土しています。

江戸時代には会津中街道の脇街道として関谷宿などが発展し、近代には塩原温泉郷の入口として鉄道の敷設や道路整備が行われました。塩原へ行啓途中の皇太子嘉仁親王（後の大正天皇）が休憩のため立ち寄った旧関谷小学校跡地には、それを記念する^{ちゅうひつひ}駐蹕碑が建っています。

指定無形民俗文化財には、関谷と上大貫の城鉦舞と、嶽山箒根神社の梵天上げが継承されています。

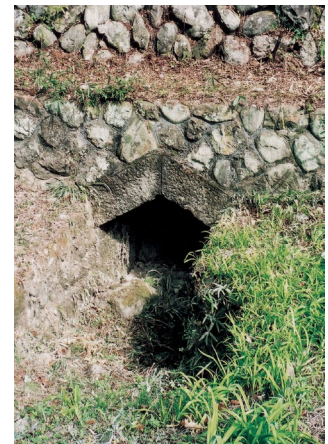
そのほか、藁沼から西那須野地区を経て大田原市へ流れる藁沼用水の旧取水口や、那須疏水の開削当時の施設の一部で、蛇尾川の地下を通すために設けた隧道である蛇尾川^{ふせこし}伏越など、水に関わる遺構も残っています。



塩原軌道「塩原口」駅舎跡



藁沼用水旧取水口



那須疏水
旧蛇尾川伏越出口



関谷常夜灯



関谷の駐蹕碑

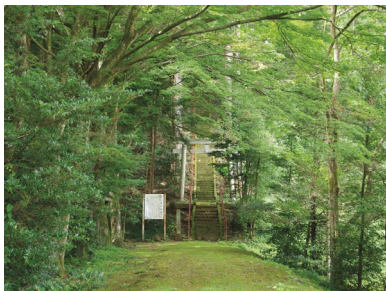


嶽山箒根神社梵天上げ

■ 箒根地区の文化財分布



鳩ヶ森城跡



野沢 (真木) 城跡

※国土地理院標準地図を加工して作成